



▲4月1日に行われた市制施行60周年オープニングセレモニー

平成26年度府中市一般会計予算

884億1000万円を可決

平成26年第1回定例会

24議案を審議

平成26年度一般会計予算は、予算総額が歳入・歳出それぞれ884億1000万円、前年度に比べ4.6%の減となっています。

提案に当たり、市長から

「26年度は、第6次府中市総合計画前期基本計画のスタートの年であり、市制施行60周年の節目の年となる。そのような中、市の財政状況は市税が増となる明るい兆しが見えてきたが、生活保護や国民健康保険などの社会保障関係経費が依然として伸び続けている。更には、少子高齢化、防災・減災対策等、時代の要請に応じた施策が求められており、引き続き財政状況は厳しいものと考えている。このため、26年度予算編成では、総合計画に掲げる各種施策を推進するため、選択と集中の観点から財源の重点化を図るとともに、事務事業の見直しや

意見書

◎ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書

我が国では、ウイルス性肝炎患者が350万人以上いるとされるほど蔓延している。国の責めに帰すべき事由によるものであるということは、肝炎対策基本法でも確認され、国の法的責任は明確になっている。

平成26年第1回市議会定例会は、2月24日から3月20日までの25日間の会期で開催されました。

市長提出議案は、平成26年度府中市一般会計予算など22件を審議した結果、可決20件、同意1件、承認1件となりました。

委員会提出議案は1件を審議した結果、可決、議員提出議案は1件を審議した結果、否決となりました。

また、陳情6件が審議されました。

徹底した経費の削減等による、経常経費の削減を行うほか、投資的経費についても横断的に事業の取捨選択を行うなど歳出の抑制に積極的取り組みを組んだ。そのような中でも財源不足が生じ、基金により約6億円の財源補填を行った状況である。このことから、総合計画前期基本計画の4年間で基金による財源補填を解消し、今後も健全財政を維持していくよう全庁一丸となって行政運営に努め、行財政改革を積極的に進めていく」との説明がありました。

3月12日から18日までの7日間にわたり開催された予算特別委員会、慎重な審査が行われ、3月20日の本会議において、賛成・反対討論を行い、採決の結果、賛成多数で平成26年度一般会計予算が可決されました。

(関連記事2・3ページ)

しかし、現行のウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の対象は、限定されているため、該当しない肝硬変・肝がん患者の入院・手術費用等は高額にもかかわらず助成の対象外となっている。そのためより重篤な病態に陥り、就業や生活に支障を来している。

また、現在の肝硬変患者に対する生活支援の制度は、医学上の認定基準が極めて厳しく、肝炎患者に対する生活支

主な施策

新規事業

○記念事業（市制施行60周年記念事業）

○けやき並木通り周辺地区道路等包括管理事業

○臨時福祉給付金（補助金）

○子育て世帯臨時特例給付金（補助金）

○レベルアップ事業

○市民協働推進事業

○コミュニティ・スクール推進事業

○防災意識啓発事業

○公共施設マネジメント事業

人事議案

定例会最終日の本会議に市長から常勤監査委員の選任の同意を求める議案が提出され、次の方が同意されました。

夏目 俊一氏（62歳）

援の実効性を発揮していないとの指摘がされている。

ウイルス性肝硬変・肝がん患者は毎日120人以上の方が亡くなっており、現在は助成対象となっていない医療費にも助成をするよう、早急に制度の拡充を図るべきである。よって、本市議会は、政府に対し、ウイルス性肝硬変・肝がんに係る医療費助成制度を創設することなど2項目を実現するよう要望する。